

4) 抗セントロメア抗体陽性で持続的低補体価を伴う1例

長谷川 尚・三浦 義明 (県立新発病院) 内科
 横山 靖・上野 光博
 高山 龍・鈴木 亨
 柄沢 良・殷 熙安
 西 慎一・荒川 正昭 (新潟大学第二内科)

症例は54才女性。昭和55年から、増悪、寛解を繰り返すレイノー現象と乾燥症状を主訴に昭和61年8月、当院を受診した。理学的には、乾燥性角膜炎を、一般検査では、極く軽度の蛋白尿、血沈の軽度亢進、軽度の肝障害を認めた。血清学的には、C3, C4 補体蛋白量は正常ながら血清補体価 CH50 は 16.4 U/ml と低下し、抗核抗体は 1280 倍で抗セントロメア抗体陽性だった。抗 DNA 抗体は 21.4 U/ml (RIA) で、当初、incomplete SLE も考えられたが、血中免疫複合体は陰性、腎生検でも補体の沈着を認めず、持続的低補体価は未検索の補体成分の欠損の可能性も考えられた。その後の検索で C7 欠損が判明した。C7 欠損症は乳幼児期の髄膜炎菌感染により気付かれることが多く、膠原病の合併例の報告は少ない。このうち、検索しえたものでは CREST 症候群、SLE, RA の合併例のみだった。本例は臨床的にレイノー症候群、シェーグレン症候群が疑われ、非常に興味深い症例と考えられた。

II. 特別講演

「新潟膠原病研究会の想い出」

新潟大学第二病理教授
 大西 義久 先生

第187回新潟循環器談話会

日時 平成3年7月13日(土)
 午後3時より
 会場 新潟グランドホテル

I. 一般演題

1) 心不全を合併した高齢者修正大血管転位症の1例

齊藤 正明・池主 雅臣
 佐伯 牧彦・山口 利夫
 五十嵐 裕・田村 雄助
 和泉 徹・柴田 昭 (新潟大学第一内科)
 宮村 治男 (同 第二外科)

心内合併奇形を認めない修正大血管転位症 (CTGA) の高齢者例を経験した。症例は56才の女性で、4年前に他院にて僧帽弁閉鎖不全症と診断され、以後内科的に経過観察されていた。今回、2回の心不全を契機に当科に紹介され、心エコー、心 MRI、左右心室造影にて、左側房室弁逆流Ⅲ度とⅠ度房室ブロックを伴った CTGA (Van Praagh 分類 SLL) と診断した。本例の心不全の原因には、三尖弁閉鎖不全と、機能的左室の adaptation failure の関与が与えられ、ジギタリス製剤、利尿剤、ACE 阻害剤によって心不全をコントロールした後外来加療とした。

心内合併奇形を伴わない CTGA の高齢者例はまれで、本邦ではこれまでに35例が報告されている。これらの多くは経過中に三尖弁閉鎖不全や高度な房室ブロックを生じることが知られており、治療法や予後を考える上で重要と考えられる。

2) 心房ペースメーカーの位置と、心房興奮様式の検討

一体表面電位図と心表面電位図の比較一

佐藤 誠一 (新潟こばり病院) 小児科
 福嶋 英樹・佐藤 勇
 堺 薫 (新潟大学小児科)

心房ペースメーカー (PM) の位置を、18例の心表面電位図 (Epicardial mapping: EpiMAP) と体表面電位図 (Body surface mapping: MAP) で比較検討した。

EpiMAP の記録は1心拍同時多点記録により求めた。MAP の記録からデータの表記法として、等電位図 (Isopotential mapping: IPM) と等積分値図 (Isointegral